■ 特集／ Hello,MINGJIAN

1

5

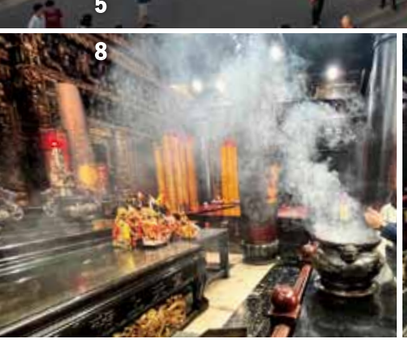
2

3

4

6

7


8

1／美しい景観が広がる茶畑、2／お茶を楽しむカフェ（茗間仙境）メニュー、3／特産品のドラゴンフルーツ、4／赤土で育まれた生姜の収穫

5・6・7・8／毎年 5,000 以上の巡礼団体が参拝する受天宮（ 1・3・4・5／写真提供：名間郷公所 ）

02 お茶と祈りが息づく「名間郷（めいかんごう）」

名間郷は、台湾中部・南投県の西部に位置する都市です。名間郷の地形は、台湾中部にある「八卦台地（はっか台地）」の南端にあり、平均標高２１５ｍの緩やかな台地と平野に恵まれています。水はけの良い赤土と適度な霧が育む台湾有数のお茶所で、人口約３万６千人（約１万２千世帯）の方々が暮らしています。

主な産業は農業で、人口の約60％が農業に従事しています。台湾茶の代名詞とも言える「松柏長青茶（しょうはくちょうせいちゃ）」をはじめ、高品質な茶葉やドラゴンフルーツ、パイナップル、生姜等の農産物の栽培が盛んで、一面に広がる緑豊かな茶畑の景観と、のどかな農村の温かみが訪れる人を優しく迎えてくれる魅力あふれる都市です。

また、人々の生活には深い信仰心が息づいています。その信仰の中心にあるのが、「松柏嶺（しょうはくれい）」の台地に鎮座する総本山「受天宮（じゅてんぐう）」です。受天宮は、道教の神様である「玄天上帝（げんてんじょうてい）」を祀っており、年間を通して台湾全土から数多くの信者や巡礼の団体が訪れています。

広大な茶畑を潤す台地の風と、絶えず線香の煙が立ち上る神聖な杜。名間郷の人々は、お茶づくりとともに、豊かな自然の恩恵を受け、神仏への敬意を日々の営みの中に丁寧に重ねながら、温かなコミュニティの時間を紡ぎ続けています。

名間郷 郷長 （名間郷の行政のトップ）

MINGJIAN

チェン ハンリー
陳 翰立 様

◎生年月日
1979 年 8 月 29 日
◎郷長歴／現在 1 期目